

問いは、 町を動かす

あいなん未来議会2026 高校生が見つめる町の未来

8月10日(月)、未来を担う若い世代の高校生が町議会の仕組みなどについて実体験を通して学び、町政に対する理解と関心を深め、高校生議員からの提言や意見を町政に反映することを目的に役場議場で『あいなん未来議会2026』を開催しました。



愛媛
CATV
動画

南高生を代表して登壇した 10 人の議員



澤近 ももこ 桃子 議員



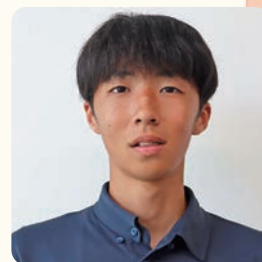
畠山 りく 陸 議員



新谷 つばさ 翼 議員



宇野 りょうすけ 稜佑 議員



宮崎 かつき 将貴 議員



幸田 そうし 蒼士 議員



河野 なつみ 夏海 議員



清水 りせ 史世 議員



清家 みう 美羽 議員



渡邊 さき 紗希 議員

行政と議会の仕組みを学んで迎えた議会当日

7月7日(火)

南宇和高校で、企画財政課政策推進室が愛南町総合計画の内容と進行状況について説明し質疑応答を行いました。

7月17日(金)

役場本庁で議会事務局が議会の仕組みや流れについて説明し、議場で吉田茂生^{しげお}議長の進行でリハーサルを行いました。



質問の方法は一問一答方式、時間制限は答弁を含めて1班20分以内で行いました。南宇和高校から選ばれた10人の議員は、町の将来に関わる重要なテーマについての一般質問を行い、町長や教育長の答弁に熱心に耳を傾けました。

町の未来を考えるとという責任の重さ、意見を提案することの難しさを感じ、自ら問題意識を持って調査・研究を進めて臨んだ議会。一般質問や再質問などの準備に多くの時間を費やし、一生懸命に町の未来と向き合ってきた10人の議員は、堂々と演台に立ち質問や提案を投げかけました。



議員氏名	質問事項
畠山 ^{りく} 陸 澤近 ^{ももこ} 桃子	愛南町の農業の活性化について
宇野 ^{りょうすけ} 稜佑 新谷 ^{つばさ} 翼	1. 愛南町の漁業における販路拡大について 2. 愛南町の今後の漁業について
宮崎 ^{かつき} 将貴 幸田 ^{そうし} 蒼士	1. 観光イベントについて 2. 観光の釣りスポットの利用について
清水 ^{りせ} 吏世 河野 ^{なつみ} 夏海	町民の防災意識について
渡邊 ^{さき} 紗希 清家 ^{みう} 美羽	1. 秋祭りの伝統行事の継承に関する政策について 2. 学校と地元企業・社会人との連携について 3. 南宇和高校の全国募集に伴う相談しやすい環境づくりについて

農業の活性化について

問

畠山 陸^{りく} 議員
澤近 桃子^{ももこ} 議員

高齢化と後継者不足により、地域農業の維持が難しくなることが懸念されます。柑橘栽培が盛んな町の農業を将来にわたるため、ドローンやICTを活用したスマート農業の導入方針、町内での柑橘加工施設の整備、若い世代の就農者を増やす取り組み、研究機関と連携した新品種の開発について伺います。

答

中村 維伯^{まさのり} 町長

高齢化や担い手不足に対応するため、ドローンによる農薬散布への支援など、省力化につながるスマート農業の普及を進めます。柑橘の加工施設は採算性に課題があり計画を見直し、現在は委託搾汁による加工・販売とJAの選果場再編を支援しています。担い手の育成では「愛南町農業活性化協議会」を設立しました。



漁業における販路拡大・今後の漁業について

問

宇野 稜佑^{りょうすけ} 議員
新谷 翼^{つばさ} 議員

本町は全国有数の漁業が盛んな地域ですが、魚価の変動や魚離れにより、漁業者を取り巻く環境は厳しい状況にあると考えます。現在の販路拡大の取り組みと成果、海外への販路拡大に向けた今後の施策、ブランド化やインターネット販売による情報発信の進め方など、漁業者への支援を伺います。

答

中村 維伯 町長

「愛南マダイ」などのブランド化を進め、全国の市場や大手スーパーへの売り込み、SNSや通信販売による発信に取り組んでいます。海外では世界初となるマダイの「BAP認証」を取得し、10月には南宇和高校の生徒がヒューстонで販売促進を行います。新規就業者への支援やスマート養殖の導入も進めます。



観光イベントと釣りスポットの利用について

問

宮崎 将貴^{かつき} 議員
幸田 蒼士^{そうし} 議員

観光客は増加傾向にある一方で人口は減少しており、町の魅力を伝えきれないと感じます。町内の観光スポットを一度に巡れるイベントの実績と、今後の観光イベントやバスツアーの開催予定を伺います。

また、久良の防波堤の駐車禁止スペースについて、注意を促す看板を設置する考えを伺います。

答

中村 維伯 町長

愛南マラニクやサイクリングツアー、スタンプラリーなど、町内を周遊していただく取り組みを進めてきました。本年度は「食」と「観光地」を組み合わせた四季の周遊ツアーを予定し、松山大学の学生が企画した「浜暮らし体験」も9月に行われます。久良地区の釣りスポットでは看板の設置を進めます。

町民の防災意識について

問

清水 史世^{りせ} 議員
河野 夏海^{なつみ} 議員

地域によって防災意識や避難訓練の参加率に差があり、南海トラフ巨大地震に備えるには、この格差をなくすことが大切です。住民の意識向上に向けた町の取り組みと今後の方針、学校や保育所を含む世代を超えた避難訓練を町主体で実施する考え、約千件ある空き家を備蓄庫へ再活用する案を伺います。

答

中村 維伯 町長

「防災だより」による情報発信や、自主防災組織の訓練・講座への講師派遣に取り組んでおり、今年度設立された「あいなん防災士連絡協議会」とも連携します。11月8日(日)には南レク城辺公園を主会場とする大規模津波防災総合訓練を行います。また、町が備蓄庫等の防災施設として空き家を活用することは考えておりません。

南高の全国募集に伴う相談しやすい環境づくりについて

問

渡邊 紗希^{さき} 議員
清家 美羽^{みう} 議員

南宇和高校では全国募集に伴い魅力化が進められ、県外からの入学が増える予想される一方、新しい環境で不安を抱える生徒も増えると考えられます。安心して相談できる環境や地域とのつながりを充実させ、卒業まで安心して過ごせる学校とするための町の取り組みについて伺います。

答 中尾 茂樹^{しげき} 教育長

生徒が入学から卒業まで安心して過ごすためには、地域全体で迎える体制づくりが重要です。相談環境として、学生寮のハウスマスターや町担当者、高校関係者で構成する「サポート会議」の設置を考えています。また、地域の祭りへの参加や学生寮での交流イベントを提供し、生徒にとって第2の故郷となることを期待しています。

